



4 国有林野の活用

4 国有林野の活用

(1) 国有林野の活用の適切な推進

国有林野の貸付け

農林業をはじめとする地域産業の振興、住民の福祉の向上等に貢献するため、地方公共団体、地元住民の皆さんに対して国有林野の貸付けを行っています。

平成17年度末現在で約8万haを貸し付けており、その内訳は、農地や採草放牧地が約2割、道路、電気、通信、ダム等の公用、公共用または公益事業用の施設用地が約5割を占めています。

表 - 20 国有林野の用途別貸付け状況

(単位：ha)

区 分	平成17年度	(銚)平成16年度
農耕・採草放牧地	11,465 (15)	11,715 (15)
道路敷	14,680 (19)	14,996 (20)
電気・電気通信事業用地	18,771 (24)	15,109 (20)
ダム・堰堤敷	3,305 (4)	3,456 (5)
鉱業用地	1,049 (1)	1,087 (1)
森林空間総合利用事業用地	8,588 (11)	8,801 (12)
その他	21,039 (27)	21,024 (28)
合 計	78,898 (100)	76,189 (100)

- 注：1 貸付け面積は、各年度期末現在の数値である。
 2 平成17年度の実績は、見込み値である。
 3 ()書は、合計に占める用途別の比率(%)である。
 4 計の不一致は、四捨五入による。

事例 地域観光振興のための国有林野の貸付け

大分県の九重町では、「日本の滝百選」として選ばれた「震動の滝」で知られる鳴子川溪谷の優れた景観を活かして、地域の観光産業等の振興を図るため、吊り橋式の専用歩道橋を設置することにしました。

大分西部森林管理署では、吊り橋の設置に必要な用地等約9,000㎡を九重町に貸付け、国有林野の活用による地域観光の振興に努めました。

(九州森林管理局 大分西部森林管理署)



場 所：大分県玖珠郡九重町 飯田河内山国有林
 説 明：写真は、工事を進めている吊り橋の様子です。

林野・土地の売払い

庁舎、宿舎等の敷地については、事業の遂行に不可欠なものを除いて可能な限り売り払うことにしています。平成17年度には、旧森林管理局分局の跡地等、28ha、95億円を売り払いました。

また、森林、苗畑・貯木場の跡地等については、地域産業の振興や住民の福祉の向上等に必要な場合、公益的機能の発揮等に十分配慮しつつ売り払うことにしています。平成17年度には、森林公園やダム用地等として、911ha、37億円を売り払いました。

その結果、平成17年度の林野・土地の売払い収入は132億円となりました。

なお、売払いに当たっては、ホームページや新聞広告等を活用して公売物件に関する最新情報を不動産業界等に提供するなど、様々な販売努力を行っています。

表 - 21 林野・土地の売払い状況 (単位: ha、億円)

区分	平成17年度		(参考)平成16年度	
	面積	金額	面積	金額
林野	911	37	1,108	52
土地	28	95	28	138
計	939	132	1,136	190

表 - 22 林野の用途別売払い状況 (単位: ha)

区分	平成17年度		(参考)平成16年度	
所管換・所属替	560	(61)	586	(53)
公用・公共事業用	161	(18)	437	(39)
産業振興用	94	(10)	23	(2)
その他	96	(11)	62	(6)
合計	911	(100)	1,108	(100)

注: 1 ()書は、合計に占める用途別の比率(%)である。
 2 「所管換」とは、他省庁への売払い、「所属替」とは、農林水産省内の他部局への売払いのことである。
 3 計の不一致は、四捨五入による。

事例 森林管理局分局跡地の売払い

北海道森林管理局では、平成15年度末をもって廃止した旭川分局と帯広分局の庁舎と敷地を、地元の旭川市と帯広市に売り払いました。

これらの庁舎は、ともに道産材をふんだんに使用した建築物であり、それぞれ市民交流センターや保健福祉センターとして利用される予定です。

(北海道森林管理局)



場所: 北海道旭川市(左上)、帯広市(右下)
 説明: 写真は、旧旭川分局の庁舎(左上)と旧帯広分局の庁舎(右下)の様子です。

(2) 公衆の保健のための活用の推進

優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林を「レクリエーションの森」として設定し、国民の皆さんに提供しています。

平成17年度には、延べ約1億4千万人の方々に利用していただきましたが、これからも利用者ニーズに即した魅力あるフィールドとして活用いただけるよう、リフレッシュ対策に着手しました。

このほか、「レクリエーションの森」では、利用者の方々に自主的に協力していただいている「森林環境整備推進協力金」も経費の一部として活用しつつ、国民の皆さんが快適に利用していただけるよう、森林や案内板・歩道等の整備、美化清掃、パンフレットの作成等を進めています。

事例 ^{しんせんぬま}ニセコ神仙沼自然休養林のリフレッシュ対策
^{しりべし}後志森林管理署では、ニセコ神仙沼自然休養林において、利用者ニーズに即した整備・活用を推進するため、地元自治体や観光協会、一般市民からの公募委員などの参加による「ニセコ神仙沼の魅力を考えるワークショップ」を開催し、より魅力あるフィールドとしていくための「ニセコ神仙沼リフレッシュ行動計画」を取りまとめました。
 また、子どもから高齢者まで幅広い層がニセコ神仙沼の自然を満喫できるようユニバーサルデザイン^注による歩道の整備を実施しました。
 (北海道森林管理局 後志森林管理署)



場所: 北海道岩内郡共和町 前田国有林
 説明: 写真は、「ニセコ神仙沼の魅力を考えるワークショップ」(左上)と整備した歩道(右下)の様子です。

表 - 23 レクリエーションの森の設定状況及び利用者数

レクリエーションの森の種類	箇所数	面積 (千ha)	利用者数 (百万人)	代表地
自然休養林	90	104	27	高尾山、赤沢、屋久島
自然観察教育林	171	33	17	箱根、軽井沢、上高地
風景林	561	184	42	摩周、嵐山、宮島
森林スポーツ林	67	9	1	扇の仙、西之浦、風の松原
野外スポーツ地域	226	51	34	南蔵王 ^{たんぼら} 、玉原、苗場
風致探勝林	123	22	21	層雲峡、駒ヶ岳、穂高
合計	1,238	404	143	

注：1 箇所数及び面積は、平成18年4月1日現在の数値であり、利用者数は、平成17年度の数値である。

2 計の不一致は、四捨五入による。

事例 ^{とがくし} 戸隠森林植物園のリニューアルオープン

戸隠・大峰自然休養林内の戸隠森林植物園は、貴重な自然や多くの野鳥の宝庫として知られ、自然とのふれあいや森林学習の場として活用されてきました。

^{ほくしん} 北信森林管理署では、更に多くの方々に利用していただけるよう、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、段差のない遊歩道やスギ間伐材のチップを汚水浄化に活用したバイオマス水洗トイレを整備してきました。これらの施設が完成したことから、平成17年度に、人と環境に優しい施設としてリニューアルオープンしました。

(中部森林管理局 北信森林管理署)



場 所：長野県長野市 戸隠山国有林

説 明：写真は、ユニバーサルデザインによる遊歩道で利用者の方が自然観察を行っている様子です。